

第一回 南区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

1. 日 時 平成25年6月18日（火）午前10時～正午
2. 場 所 南区役所 3階ホール
3. 出席委員
高智穂委員、浦田委員、福田委員、荒牧委員、近藤委員、栄田委員、豊田委員、
松岡委員、濱崎委員、植村委員、森委員、岡委員（副会長）、宮本委員、石原委員、
吉村委員、田中委員（会長）
4. 配布資料
資料1－会議次第
資料2－南区まちづくり懇話会設置要綱
資料3－南区まちづくり懇話会委員名簿
資料4－「南区のまちづくり」パワーポイント資料
資料5－平成25年度 まちづくり推進経費資料
資料6－平成25年度南区まちづくり懇話会スケジュール、
資料7－南区の情報発信ツール パワーポイント資料
資料8－南区まちづくりビジョン
資料9－南区まちづくりビジョン概要版
〈参考資料〉－南区まち歩き手帖
5. 次第
 - (1)開 会
 - (2)委嘱状交付
 - (3)挨拶 南区 長 永目 工嗣
 - (4)自己紹介
 - (5)会 長、副会 長選出
 - (6)南区まちづくりビジョン及び平成25年度まちづくり推進事業等、
平成25年度南区まちづくり懇話会スケジュール説明
 - (7)意見交換（テーマ：南区の情報発信について）
 - (8)その他
 - (9)閉 会
6. 議事録（要旨） 次のとおり

議事録（要旨）

- 事務局 南区まちづくりビジョン、平成 25 年度まちづくり推進経費、平成 25 年度南区まちづくり懇話会スケジュールについて、資料 4、資料 5、資料 6、南区まちづくりビジョン、同概要版に基づき説明
- 会 長 まずここまでで、何か質問等はないか。
- A 委員 位置づけの中で、第二次都市マスタープランとの関係性が示されていたが、都市マスの方向性が分かったほうが、まちづくりビジョンを進めるときにベースになると考える。第二次都市マスタープランについて、現状分かっていることを教えて欲しい。
- 区 長 第二次都市マスタープランはハード面の計画で、交通体系、道路ネットワーク等について、都市局サイドで策定をすすめている。私どもが担うのは、その上で活動する皆さん方と一緒に参画協働で実現するソフト面でのビジョン実現に向けてのまちづくりである。
このビジョンの 6 本の柱に基づき、区民、団体の皆さん、行政と一緒に取り組む課題、もしくは、魅力を磨き上げるというようなまちづくりについて、皆さんと取り組むこととしており、この部分を懇話会では主に議論をお願いしたいと考えている。ただ、都市の方向性も重要な要素であり、適宜、資料提供させていただく。
- 会 長 2 年前の東北の震災後、政令指定都市に移行したのは熊本市が初めてであり、変化の時期。今まさに、ここでの議論が、新しい区のまちづくりのスタートになる。前例にとらわれずに、今の南区を今後どうするかをどんどん議論していただければと思う。
- 事務局 テーマは「南区の情報発信」。現在、南区の広報ツールとして、資料のとおり、区ホームページ・フェイスブック、これ以外に紙ベースの市政だより、交流室・公民館だよりがある。また、本年度から区だよりを年 2 回発行することが決まっており、第 1 回目は秋頃を予定している。現在こういった形で情報発信をしているが、この懇話会では、南区の情報発信の企画についていろいろとご意見をいただきたい。
- 会 長 説明のあった 5 種類あると言っても、インターネットが見れない環境の方は、市政だより、交流室・公民館だより、新しく発行される区だよりを楽しみにされていると思う。情報と言っても個人によって格差があり、各々の情報発信の仕方についてご意見をいただきたい。

B 委員

まちづくりに関しての情報というのは非常に大事である。区ホームページや市政だよりについては、行政側が収集、発信しているものが一般的だが、私達の身の回りにもいろんな情報が入る。企業が持っている情報、個人が持っている情報、団体が持っている情報、自治会が動いている情報、そういった情報をまとめ、市民が共有しながら、まちづくりに活かしていくことが重要である。情報をどのように集めて、どう処理して、どのように市民に配信して行くのか。また、その配信した情報と市民の行動力をどのように関連させながら、まちづくりに繋げていくのかということを考えなければならない。

会 長

情報には色々な種類があり、行政が地域に配信する情報は、行政サービスとして必要な情報だが、地域の中にも情報はあって、それをまとめ、ネットワークを活かしてどのように配信するか、それに基づいた市民の行動を誘発するための考え方はどうなっているか。また、その情報を市民の方々が行動に移す時に、高齢化や地域のまとまり等わからないものを、どのように活動に繋げていくかなど、なかなか難しい問題だと考える。

A 委員

いろいろな情報の発信については、受け取る側のことも考えたほうがいいのではないかと。私は新聞の切抜きから情報を収集している。新聞の情報は、今説明のあった5つの方法に加えて、こちらも毎日見て、自分に必要な情報だけ得ることができ、受け取る側としては非常に便利な情報源である。

会 長

A 委員からは情報を発信する場も大事だが、受け取る側も大事という意見をいただいた。今日は新聞社の方が来られているが、どういう情報だったら載せたいと思われるか。

新聞社記者

どういう情報を発信したいかの事だが、私個人としては熊本市、熊本県がもっと元気になっていくために、地域でどのような事に取り組まれているか。また、その取り組みの中で、どのようなことに苦労し、結果こういうふうに変化したらうまく回り始めたとか、色んな人が参加するようになったとか、そういう実践をどんどん発信していきたいと考えている。日ごろから地域を回らせていただいているが、まだまだ足りない。情報提供をよろしく願いしたい。

会 長

おそらく記者の方も各メディアもそうだと思うが、たいした事ではないと思われる事でも、そこでしか発信できない情報はたくさんあると思う。発言にあったように、やった人しか分からないコツやこうしたらうまく

いったとか、場合によったら失敗した事も大事かと思う。このようなことが発信できれば、南区ならではの情報になるのではないか。C委員は情報についても詳しいと認識しているが、ぜひ意見をいただければと思う。

C委員

専門家ではないが、やはり情報はいかに伝えるかということだと思う。一つは、外に出す情報と内に出す情報で、情報には大きく2種類があり、且つ、そのエリアという平面状のものがある。例えば、昔の井戸端会議のシステムというのとはとても素敵だなと思う。人が集まるところには必ず情報が集まり、気軽に集まれる場所があれば、そこが情報交換の場所になる。このような機会を増やすことが必要ではないか。

A委員

今の情報ということで、ある区のまちづくり懇話会の委員の方は、「5つの区で競争していくことで新しい政令指定都市としての自治の仕組みを模索していきたい。」と話されている。基本的には競争をしないといけないと思うが、競争ばかりではいけない。5つの区が連携しながら情報共有が必要な部分もあると思う。「これは大事な情報だから外には出さない。」というのではなく、「こんな良いことをしているのであれば取り入れようか。」というふうに。だから、南区では競争のみではなく連携も考えていただきたい。

会長

区長から願います。

区長

今、各区では資料にあるような方法で情報を発信しているが、どちらかと言えば、区民全体・熊本市全体に向けての情報発信。また、南区に6つあるまちづくり交流室では、地域に出向いたり、会議に参加したりして情報を集め、発信しているし、私自身もそれぞれの団体の方々がどうしているのかを個別に座談会という形での情報収集し、発信をしていきたいと考えている。

校区や自治会レベルの情報発信、これらが理想的には同じ方向を向いて情報発信ができ、連携がとれれば一番良いことだと思う。

会長

情報というのは目に見えないものであり、伝えたいと思わないと情報は伝わらない。書かれているだけとか、新聞もそうだと思うが、ただ載っただけでは伝わったとは言わず、「書いた人が伝えたいと思う」、「読む人が知りたいと思う」ということが合わさって初めて情報ということになる。区長から情報の収集と発信という話があったが、知りたいと思うところと伝えたいと思うところが、どこかでマッチしなければならない。今はその点がなかなか進められていないと思われる。B委員の話では、それぞれに情報はもっているとのことでしたし、それが南区に寄せられ

ればいいと思うし、区としてもその情報が欲しいところではないか。

区 長 ビジョンの実現に向けての行動指針として、我々はまず「南区を知る」ことから始めようと考えた。「知る」ということは、いかに情報発信するかということでもある。地域団体、校区の方々も地域を「知る」こと、現状を発信しましょうということ。行政も南区の地域もそれぞれ役割があると思う。それぞれが同じ方向を見て、情報発信を連携できればと思う。

会 長 地域代表の委員の方からどなたかご意見はありませんか。

D 委員 「南区を歩こう～まち歩き手帖～」は中身が充実し、面白い内容となっていたため、15冊ほどいただいて帰り、各地区の温泉グループの友達と活用させていただいた。手帖にある、中無田閘門と観音寺など、「熊本(南区)にもこんなところがあるのか、勉強になった。」と参加者全員が喜んでいた。このような情報は南区を高めたのではと思う。これは本当に宝物。これを教材に、南区のいい所を高齢者にまず知ってもらい、次は子供や孫に、「南区にはこんな良い所があるよ。」ということを伝えていくことが大事である。

会 長 D委員の発言はとても大事な情報だと思う。南区からまち歩き手帖という形でD委員へ情報が伝わり、D委員はその情報を使って温泉仲間と一緒にまちに歩きに行く。これはすごく大事なニュース。「南区のまち歩き手帖を作って良かった。」ということで、宣伝にもなる。そうした情報を区だよりにのせるのか、フェイスブックにのせるのか、ホームページにのせるのか、そういった選択を区役所は持たないといけないし、D委員もそういった良いことがあったら是非に教えていただきたい。

D 委員 これが区役所にあるということを知り、もっともっと活用できたらいいなと思う。これは本当にいいもの。

E 委員 発信の手段としてこの冊子はいい。また、色々な活動を周知するという事ではインターネットも良いが、やはり毎月発行され、南区の粹もある「市政だより」だと思う。また、住民がどのような情報を知っているか把握するには、先ほどから話しにでている、各地域のまちづくり交流室が情報収集に努めていただくことも大事だと考える。地域情報の発信手段としては「コミセンだより」もあると思う。飽田地域コミュニティセンターは、飽田東と飽田南と飽田西の3校区でできた施設だが、自治協だよりとの二重発行で一時中断していた「コミセンだより」という情報発信の手段を現在委員会の中で検討されている状況である。

- 会 長 情報が多すぎるため、必要な情報と不必要な情報とを分ける事も大事だと考える。また発信の際は、地域コミュニティセンターのような拠点施設の活用が大事になってくるという話をいただいた。
- E 委員 地域の方は、当然身近な情報が受け入れやすく、そのような手段は必要だとは思う。
- 会 長 まちづくり交流室や地域コミュニティセンターは、やはり期待されているところが大きい。今日はまちづくり推進課長も同席されているが、どうお考えか。
- まちづくり
推進課長 南区のブロックごとにまちづくり交流室があるが、自治会、自治協議会等、地域と連携しながら業務に取り組んでいる。また、地域の情報発信でいえば、各自治会は広報誌を作っておられるし、南区内地域間の情報共有という意味では、南区の校区自治協議会連絡会も設置され、去年は2回ほど会議を開催したところ。その中でも先進事例ということではないが、広報活動をされている自治会に、リレー発表を2団体ほどお願いして、今はそういった取組みの中で、自分達の自治会の中での広報を発信しようかと考えて取り組んでおられるところも出てきている。校区自治協、自治会ともに内部に向けての発信と思うが、そういった広報等をされているところも多数ある。
- 会 長 まちづくり交流室は区の要だと思うので、まず南区の顔として情報を受けて、農業関係は農業振興課へとか健康関係は保健子ども課へというように、行政はそれぞれ専門の部署があるので、それぞれ適切なところに情報を繋ぐといいと思う。また、地域は地域で、両者が結びつくような場として頑張っていただけたらと思う。情報は一箇所に集まってきますので、上手に受け止めてそれぞれの専門の担当の方に振っていくことができればと思う。
- まちづくり
推進課長 まちづくり交流室やコミセンは校区自治協の皆さんの活動の拠点という形で、情報は集まってくると思うし、その情報は校区自治協の会長さんは分かっておられる。活動の拠点と実際の活動が一体となって取り組んでいただいていると思っているし、私達もその情報を各まちづくり交流室と一体となって情報を収集していく必要があると思う。
- F 委員 情報発信について、先程から話にあがっているネットワークは横の繋がりが大切。広報誌などで情報発信される時に南区の自治協や色んな団体が重なり合う部分を見出していくことが、これから先は大切になってく

と思う。私達は婦人会だけではなく、横の繋がりネットワークが大事だと思っていて、交通や福祉、子育てや青少協など色々なところに活動範囲を持っている。役所では全部違う課になるが、そういう横の繋がりやネットワークが大事。先程、C 委員がお話しされたように、色々な会議に出ているとたくさんの情報を得るので、その情報をどうやって会員の皆さんに繋げるかという事が一番大事になってくると思う。いろいろ情報発信しているつもりだが、広報誌を出すことはものすごく大変なことである。

会 長 情報を会員の皆さんと共有する時に何か工夫されている事はあるか。

F 委員 毎月、市主催の例会や校区単位の例会をやっているが、直接には関係しない情報も流している。高齢化社会になったので、振り込め詐欺の被害の話を出したり、会議後の井戸端会議的なところでも情報はたくさんいただけ。自分の校区では聞けないような話も聞けるので、そういう情報発信の仕方も大切じゃないかと思う。

会 長 情報もいろんな団体の重なり合う部分が大事だと。僕も例会は大事だと思う。特に用事がなくても会って、顔と顔を会わせるということはお互いのために大事だと思う。

G 委員 団体では集まる機会があるが、一般の市民の意見を吸い上げることは難しい。以前、山鹿のまちづくり活動に参加したとき、町の中の空き家を利用した場所に住民の方々が集まり、老人の方は忘れてはならないような民話を話されたりしていた。南区にも人がよく通るようなところに空き家がいっぱいある。一般の方の意見をお聞きするには、町の中で集まる場所として空き家を利用したりするのもいいと思う。

会 長 役所の方は、ずっと南区の方もいるが、最近異動してきた方や僕のようなよそ者の人間は情報を知るためにどこに行ったらいいかも分からないし、町中にそういった場所があると気安く行けるし、出会いの場が多くなっていいと思う。

H 委員 区長のお話の中で、各自治協がどんな取り組みをして情報発信をしているか等の具体性を聞きたいとのことだったので、城南の杉上校区の自治協だよりについてお話する。城南町には豊田・隈庄・杉上の3つの小学校があり、私は杉上校区の自治会長だが、自治協だよりは必要に応じて出している。どうしても自治協の全員に知ってもらいたい情報があれば必ず出すようにしている。今度作る予定のコミュニティセンターや児童育成クラブについての情報を1つ1つたよりとして出している。私は杉

上校区の中の赤見という地区の自治会長もしており、赤見の皆さんに必要なこと、この情報を誰に聞いてもらいたいんだということを念頭に置きながら情報の内容を整理している。

話は変わるが、南区まち歩き手帖について、これをどういう目的でどこにどういう具合に発信しようとして作られたのかがいまひとつ見えない。作る時にはこの情報を誰に知らせたいのか、どういった人に読んでもらいたいのか、という目的が必要だと思うが、それが抜けていると作っても何にもならないことがあると思う。よくできているし、たくさんの人に読んでもらいたいという希望から、区長の質問の答えになったかはわからないが、ちょっと苦言としてあげさせてもらった。

会 長

E 委員からもからもお話があったが、情報がたくさんあって、情報を伝えたい人が誰に伝えたいのか、誰にとって必要なのかをちゃんと選んで情報を適宜発信することが凄く大事なことだと勉強になった。

I 委員

子育て関係からの意見。先程から情報の発信が盛んに言われているが、子育て支援をする中で情報発信というのは難しい。そういう中で、お母さん方にお知らせしたいことがある時には、熊日さん等に「こういうのを載せてください。」と言って、次回の参加を呼びかけている。校区になると年に3回しか広報誌が出ていないので、なかなか時期が合わない。乳幼児健診の時等にはもちろん区の方からも周知していただいているが、よその校区においても来ていただける方が減ってきている。そこにはやはり情報の発信の仕方に問題があるのかなと思う。また、若いお母さん方はフェイスブックを利用するかもしれないが、フェイスブックを利用しない方への周知は新聞を取っていない方もいるので新聞の折り込みだけではなかなか難しい。若い方達は自分から出て行くというよりも受け身の方が多く、年2回の南区だよりといってもどんなことを載せてただけるのかと……。年配の方はわりと新聞でも何でも読まれると思うが、若い方はそこまでなかなか目がいかないので、若い方向けの情報発信を考えていただけたらと思う。市政だよりにしても公民館だよりにしても、「こういうことがあります。」といったお知らせが多い。新聞でもそうだが、一覧を見るとどこで何があるということが小さい字で詳しく書いてある。そういう発信は多いが、もうちょっと若い方が見るようなお便りを工夫していただければと思う。

会 長

年配の方が多いので、若い方のご意見は大事。子育てに一生懸命になっていると情報を取りに行くのはなかなか難しく、来る情報に頼ってしまう。これは自分自身も反省すべきところだが、そういう年代にも合わせていき、ホームページやフェイスブックも含めて僕も楽しんでいるし、また、南区のように区長自らが運営されている区も他に無いと思うので

いいと思う。お年よりから若い方までいろんな情報を取りに行けたり伝えたりできることが大事。最後に区長からお話をいただいてよいか。

区 長

若い方への情報発信と若い方が情報を受信していただくことが、我々にとって一番の悩み。「市政だより」は乳幼児を育てていらっしゃる女性の方や、講座を楽しみにされている年齢の高い方々がよく読んでいらっしゃるということで、若い方に読んでいただけないという悩みはある。今はフェイスブックやソーシャルネットワークという手法があるので、若い人を呼び込んで情報を発信していければと思っている。今日、皆さん方からいただいたご意見の情報の受信と発信、収集と発信についても、市民の皆さん方、団体の皆さん方と協働で進めていかなければならないと思っているので、できれば各自治協の方々も南区のコーナーを設けていただきたい。我々も区の情報ができるだけ集めて発信する。そういう連携を取っていくことが重要だと思うので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

会 長

今日が第1回目だが、活発に議論いただいたので2時間があっという間に過ぎた。第2回は7月に「まち歩き手帖」を使って、実際に南区のまちを歩いてみようと思う。南区でみんなでいきいき頑張っていきたいと思っているので、今後ともよろしく願いしたい。